

平成 26 年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成 27 年 3 月
長野市（長野県）

○計画期間：平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月（5 年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 26 年度終了時点（平成 27 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成 24 年 3 月認定の第二期基本計画に基づき、「門前都市 ながの ～心潤う 歴史と文化が賑わう まち～」をテーマに各事業を実施し、中心市街地の活性化に取り組んでいるところである。とりわけ、北陸新幹線の延伸開業と善光寺御開帳開催を迎える平成 26 年度末（平成 27 年 3 月末）を一つの画期に取り組んできた大型のハード整備事業が予定通り終了したことにより、長野駅～中央通り（善光寺表参道）～善光寺を軸とする中心市街地に人の滞留や流れが徐々に生まれており、賑わいの創出につながりつつある。

特に「長野駅善光寺口顔づくり事業」では、門前町の歴史と伝統が感じられる外観や機能的な駅前広場の整備、駅商業施設等の充実により、本市の玄関口として集客・回遊の拠点となるとともに、街のシンボリックな存在として賑わいの創出に大きく寄与している。また、長野駅から善光寺に至る中央通り（善光寺表参道）では、「中央通り歩行者優先道路化事業」が実施され、歩道の拡幅による利用環境の整備とまちなみ景観の向上を図ったことにより、歩行者の増加や回遊性・滞在時間向上への効果が期待されている。今後、善光寺御開帳を機に実施される各種ソフト事業やイベント、地元住民及び商業者等と連携した取組みと合わせて、来街者への『おもてなし』向上を図ることで、中心市街地のさらなる賑わいと活力の向上につなげていきたいと考えているところである。

まちなか居住については、民間主体のマンション建設が好調で、現在建設中や今後建設予定のものが複数あり、中心市街地内でのマンション建設に対する民間投資に活発な動きが見られる。今年度末にも、権堂地区で「権堂 B-1 地区市街地再開発事業」、「権堂地区市民交流施設整備事業」が概ね終了し、分譲マンションへの入居や公益施設の供用開始を受け、居住人口及び交流人口の増加が見込まれる。

中心市街地の空き店舗については、権堂地区で地元組織の「権堂まちづくり協議会」によるまちの魅力発信や空き店舗情報の発信など、まちの再生と賑わい向上への積極的な取組みの結果、減少状態を維持している。一方、中央通り（善光寺表参道）では未だ空き店舗数減少の動きは見られないが、今後、中央通り歩行者優先道路化事業による歩行者等の増加や善光寺表参道ガイドツアーによる観光客の増加、集客イベントによる交流人口の増加によって創られる通りの賑わいが、新規店舗の出店や観光商業の活性化に寄与することが期待されている。

公益施設の利用では、「もんぜんぷら座運営事業」、「生涯学習センター管理運営事業」などにより、やや減少傾向が見られるものの概ね安定した利用実績で推移しており、中心市街地が子育て支援、国際交流、教育・学習等のための『交流と憩いの場』として認知され、定着しつつある状況がうかがえる。

引き続き、計画に位置づけた各種事業の推進を通じ、目標達成に向けて努めていく。

2. 平成 26 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

北陸新幹線の延伸開業及び善光寺御開帳に向けて取組んできた大型の整備事業が順調に進み、長野駅周辺や中央通り(善光寺表参道)ではまちの魅力の向上が図られたことにより、新たな賑わいの創出と活性化への期待が高まっている。一方では、駅周辺既存の商業施設への影響も懸念されており、今後、これら事業による効果や影響について見極めながら、当協議会、(株)まちづくり長野、行政及び地元住民や商業者等が連携し、さらなる中心市街地活性化のための取組みを進めていく必要がある。また、「もんぜんぷら座」や「生涯学習センター」などの公益施設の利用実績も安定しており、中心市街地の空き店舗数も減少状態を維持していることなどから、基本計画に基づく各種取組みが一定の成果を上げていると評価することができる。今後さらに目標値の達成を目指し、計画事業の着実な推進についてお願いしたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
①訪れたいまち	善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量	25,555 人 (H22)	26,900 人 (H28)	25,203 人 (H26)	③	①
②住みたいまち	長野市全体における中心市街地の人口割合	2.35% (H23)	2.5% (H28)	2.38% (H26)	①	①
③歩きたいまち	1. 中心市街地(6地点)の歩行者・自転車通行量	126,478 人 (H23)	130,000 人 (H28)	103,716 人 (H26)	③	③
	2. 空き店舗数の減少	29 件 (H23)	22 件 (H28)	21 件 (H26)	①	①
④参加したいまち	もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数	481,707 人 (H22)	485,000 人 (H28)	465,880 人 (H26)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」について

- ・目標値の 26,900 人に対し、最新値は 25,203 人である。平成 25 年度は荒天のため特異値(13,692 人)であったが、26 年度は基準年並みに回復した。平成 24 年度の調査結果 26,904 人(目標値を達成済み)と合わせると目標達成に向け順調な増加傾向にあり、善光寺周辺地区や中央通りにおける道路美装化(石畳舗装)、沿道での建物修景による景観向上の効果が現れてきているといえる。今後、北陸新幹線の延伸開業や善光寺御開帳開催による誘客効果と善光寺表参道ガイド協会によるまち歩きツアーの取組みにより、観光客の増加が期待されることから目標達成は可能と見込まれる。

②「長野市全体における中心市街地の人口割合」について

- ・目標値の 2.5%に対して、最新値は 2.38%である。民間主体のマンション建設による住宅供給等が順調であり、平成 26 年度末には「権堂 B-1 地区市街地再開発事業」に伴う分譲マンションへの入居が行われたほか、27 年度以降もマンション等の分譲が予定されており、目標達成は可能と見込まれる。

③-1「中心市街地(6地点)の歩行者・自転車通行量」について

- ・目標値の 130,000 人に対し、最新値は 103,716 人である。調査日が降雨であったことが影響し、歩行者等が大きく減少した。これまで北陸新幹線の延伸開業と善光寺御開帳に向けて実施中の「中央通り歩行者優先道路化事業」及び「長野駅善光寺口顔づくり事業」並びに「権

堂地区市民交流施設整備事業」の工事の影響等により歩行者や自転車等の通行量が伸び悩んでいたが、これらの事業が今年度完了したため、今後はその事業効果による通行量の増加が期待され、目標達成は可能と見込まれる。

③ - 2 「空き店舗数の減少」について

- ・昨年度より2件増加したが、引き続き目標達成の状態を維持しており、順調に推移している。特に、権堂アーケード沿い空き店舗数の減少については、地元組織の「権堂まちづくり協議会」による「権堂まちづくりセンター」を地域再生の活動拠点に、まちの魅力等の情報発信や文化講座の開催、空き店舗対策等の様々な取組みを行ってきた成果が現れたといえる。今後は、中央通りにおいても権堂地区での取組みを参考に地元商店会団体への働きかけや連携を図りながら、空き店舗数の減少に取り組んでいく。

④ 「もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数」について

- ・目標値の485,000人に対し、最新値は465,880人である。平成24年度の利用者数(487,065人)は目標値を達成したものの、その後の2年度は減少傾向で推移している。「もんぜんぷら座運営事業」及び「生涯学習センター管理運営事業」の実施により、両施設は中心市街地における「交流と憩いの場」として定着し、一定の利用者実績を上げている。もんぜんぷら座で利用者数にやや減少傾向が見られるが、利用環境の改善・整備や関係施設との連携による利用PRに取り組みながら、年間利用者30万人を目指し、生涯学習センターでは自主企画講座の充実等を図りながら、利用者数の増加をさらに目指すことで、目標達成は可能と見込んでいる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

目標指標①の「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」について、「善光寺周辺地区まちなみ環境整備事業」により調査地点である善光寺仁王門通りの道路美装化が完了したことや中央通り(善光寺表参道)の整備完了、「長野市善光寺表参道ガイド協会」の本格稼働による観光客等の増加が見込めることから、見通しについて前回の「③」から今回「①」に修正した。

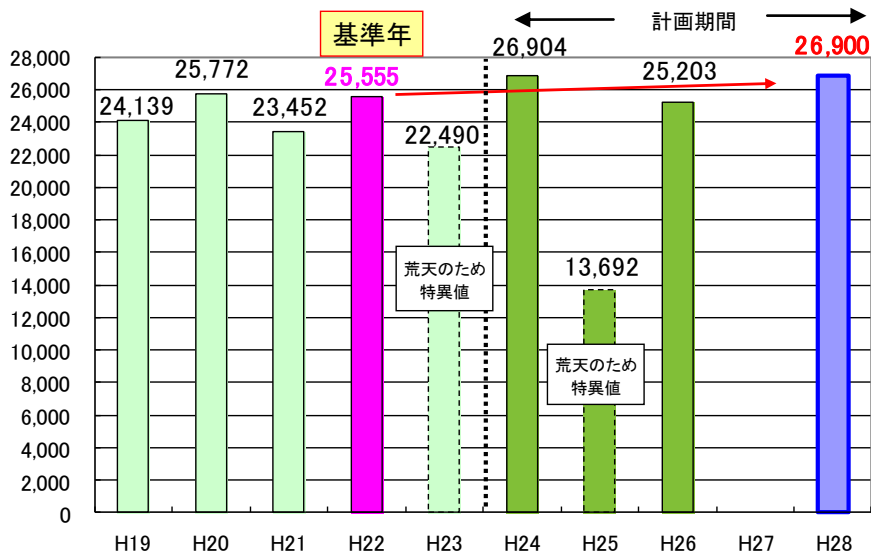
4. 目標指標毎のフォローアップ結果

目標①「訪れたくなるまち」

「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量（人）」

※目標設定の考え方 基本計画 P76～P77 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H22	25,555 (基準年値)
H23	22,490
H24	26,904
H25	13,692
H26	25,203
H28	26,900 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量を、毎年10月第3日曜日に善光寺仁王門前（1地点3ポイント）において8時から18時まで計測

※調査月：平成26年10月

※調査主体：長野市

※調査対象：歩行者、自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 善光寺周辺地区街なみ環境整備事業（長野市）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	善光寺周辺地区の道路・小路等の石畳舗装による美装化、電線類の地中化等による整備
事業効果及び進捗状況	平成26年度までに道路美装化429m、電線共同溝整備800m、住宅修景助成44件等が完了し、善光寺門前にふさわしい景観の向上が図られている。引き続き、良好な景観整備に向けて道路美装化と電線類地中化を実施していく。

②. 長野駅東口バス待機場等整備事業（長野市）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	長野駅東口の観光（貸切）バス乗降場、特急・急行バス待機場の整備と既存の自転車駐輪場の充実
事業効果及び進捗状況	平成26年3月末にバスの乗降場・待機場「ユメリアバスパーク」として供用開始、観光バスを中心に利用されており、利用環境の向上が図られた。広場整備等を行ない、完了の予定である。

③. ぽていお大門運営事業（株まちづくり長野）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	空き店舗や土蔵を活用した商業施設「ぽていお大門」及び当該施設や周辺商店街への利便性向上のため設置した「表参道もんぜん駐車場」の運営・管理並びに誘客イベントの実施
事業効果及び進捗状況	「善光寺表参道ギャラリーウィーク 2014」、9周年祭「名月と銘酒の宴」などの誘客イベントを実施。文化活動を行う地域の各団体とも連携し、賑わいの発信拠点としての運営を実施している。

④. 善光寺表参道まち歩き事業（長野市善光寺表参道ガイド協会）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	平成 27 年 4 月の善光寺御開帳に向けての観光ガイドの養成など、観光ガイドの仕組み構築
事業効果及び進捗状況	平成 24 年 6 月の「長野市善光寺表参道ガイド協会」の設立から平成 25 年度は具体的なガイドコースの検討・作成とガイド募集を実施。平成 26 年度はガイド協会事務局の開設、ガイド育成研修会、ガイドツアーを実施、平成 27 年春の善光寺御開帳に向けたまち歩き企画の作成及び同企画に関する研修会を行ない、御開帳本番に備えた。

●目標達成の見通し及び今後の対策

北陸新幹線の延伸開業と善光寺御開帳開催に合わせ進めてきた、中央通り（善光寺表参道）の歩行者道路優先化事業や善光寺仁王門通りの道路美装化事業が順調に進捗した。「長野市善光寺表参道ガイド協会」による観光ガイドツアーの本格実施により目標達成は可能と見込む。

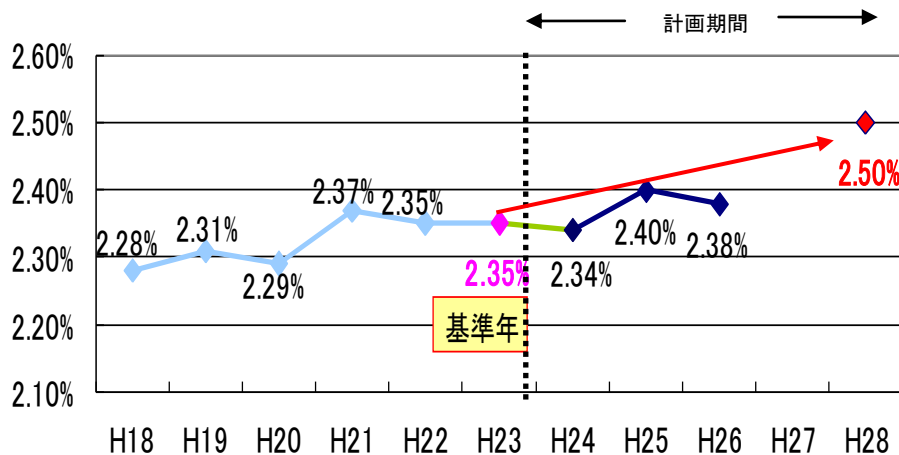
今後は、地元住民や商業者等と連携しながら、観光客等の受け入れのための「おもてなし」の実践に努めていくことで、効果的にまちの魅力を発信し、中心市街地の誘客能力をさらに高め、交流人口の増加と回遊性の向上を目指す。

目標②「住みたくなるまち」

「長野市全体における中心市街地の人口割合(%)」

※目標設定の考え方 基本計画 P78～P80 参照

●調査結果の推移



年	(%)
H23	2.35 (基準年値)
H24	2.34
H25	2.40
H26	2.38
H28	2.50 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データにより、毎年10月1日現在の居住者数を調査

※調査月：平成26年10月

※調査主体：長野市

※調査対象：中心市街地区域内の36町丁字別の住民基本台帳人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか居住体験事業（長野市）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	「権堂B-1地区市街地再開発事業」の効果促進事業として実施。空き家を活用した定住促進活動に取り組む民間団体が実施する「まちなか居住体験事業」を支援し、まちなか暮らしの魅力を発信
事業効果及び進捗状況	民間団体への補助事業として実施した平成23～25年の3年間で、延べ46件、362日の居住体験利用があり、2戸の定住につながった。また、「門前暮らし」の魅力をPRする企画事業を実施。延べ約100名が参加し、新たなまちの魅力を再発見につながった。平成26年度は本事業の手法等を参考に新事業「中心市街地遊休不動産活用事業」を検討、平成27年度から事業を継承し実施していく。

②. 権堂B-1地区市街地再開発事業（権堂B-1地区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	交通利便性の高い権堂地区に、土地の合理的かつ健全な高度利用により、まちなか居住の推進を図る再開発事業。地区面積：約0.6ha、敷地面積：約5,200㎡、用途：住宅（82戸）、商業施設、業務施設
事業効果及び進捗状況	分譲マンション82戸が完成し、27年3月から入居開始された。地区の居住人口及び交流人口の増加につながった。

●目標達成の見通し及び今後の対策

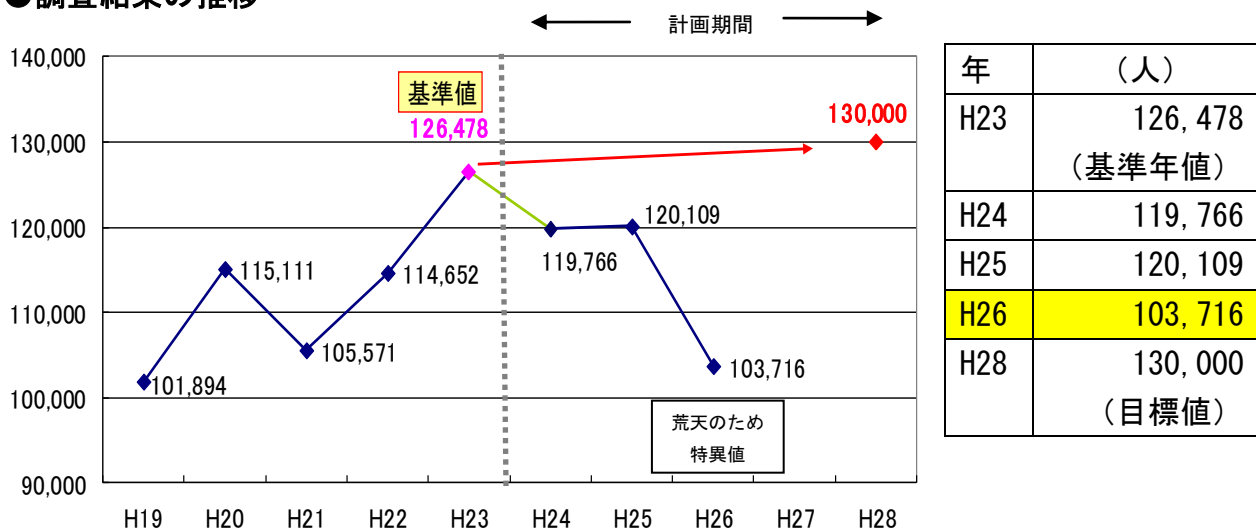
平成 27 年 3 月に「権堂 B-1 地区市街地再開発事業」により整備された分譲マンション 82 戸への入居が行われ、7 月には 39 戸の民間のマンション供給が予定されており、目標数値に対して順調な推移を見せている。民間によるマンション建設が引き続き好調で、今後も建設中または建設予定のマンションが複数予定されており、目標達成は可能であると見込んでいる。また、平成 27 年度から実施する新規事業「中心市街地遊休不動産活用事業」の取組みを通じてさらなる人口増加を目指していく。

目標③「歩きたくなるまち」

③ - 1 「中心市街地（6 地点）の歩行者・自転車通行量（人）」

※目標設定の考え方 基本計画 P81～P86 参照

●調査結果の推移



※調査方法：歩行者・自転車通行量を、毎年 9 月第 1 金曜日に 6 地点 31 ポイントにおいて 8 時から 20 時まで計測

※調査月：平成 26 年 9 月

※調査主体：長野市

※調査対象：歩行者、自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通り歩行者優先道路化事業（長野市）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	中央通り（善光寺表参道）の歩行者優先化のための道路整備 L=約 700m、W=18m
事業効果及び進捗状況	平成 22 年度の工事着手以降、新田町交差点から大門交差点区間 L=700m の整備が完了。歩道の拡幅による利用環境の整備・石畳舗装による景観向上が図られ、歩行者数の増加や回遊性・滞在時間向上の効果が期待される。

②. 長野駅善光寺口顔づくり事業（長野市）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	基本計画及び整備計画の策定並びにペDESTリアンデッキを含めた善光寺口駅前広場の整備及び歩道のバリアフリー化 善光寺口駅前広場（A≒6,800 m ² ）
事業効果及び進捗状況	JR 東日本との協議や景観検討委員会による検討等を経て、平成 24 年度に工事着手し、平成 27 年 3 月末に完成した。門前町らしい外観と機能的な駅前広場が整備され、新たな「まちの顔」・賑わい創出の拠点としての整備が図られた。今後、長野大通り線側にエレベーター・エスカレーターを追加整備して完了の予定である。

③. 長野駅周辺第二土地区画整理事業（長野市）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	面積 58.2ha のうち都市計画道路 4 路線の整備（総延長約 2.9 km（うち 1.5 km は H22 までに完了））及び近隣公園整備（A=8,810 m ² ）多目的広場整備（A=4,290 m ² ）せせらぎ歩道整備（L=536m）ならびに街区公園（3号:2,100 m ² ）
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度は、建物移転 42 棟及び都市計画道路等の整備を実施した。多機能で魅力ある市街地を目指し、継続的かつ効率的な整備を進めており、平成 30 年度完了を予定している。

④. 中心市街地循環バス機能向上事業（長野市）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	中心市街地循環バス「ぐるりん号」の老朽車両の更新・増車による運行頻度の増加、環境への負荷低減及びバリアフリー化の推進。増車車両の一部への電動車両導入
事業効果及び進捗状況	循環バス再編計画に基づき、平成 24 年度に運行車両の増車並びに運行時間及び運賃の見直しを実施した結果、乗降客数が対前年比で 12.9%増加した。以後、安定した利用者数で推移しており、中心市街地の回遊性向上に貢献した。平成 26 年 10 月から電動バスを本格導入し、環境への負荷低減を図った。

⑤. 歩行者用公共案内標識計画検討事業（国・長野県・長野市）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	中心市街地の観光・商業の活性化のため、「長野市公共サインガイドライン」に基づき、ピクトグラム、色彩の統一等により、全ての利用者に見やすくわかりやすい歩行者案内標識整備計画を策定し、歩行者用案内標識を整備
事業効果及び進捗状況	平成 25 年度策定の整備計画に基づき、平成 26 年度から整備に着手、中央通り（善光寺表参道）を中心に案内標識 23 基を整備した。観光客の利便性向上に寄与しているとともに回遊性の向上と中心市街地の観光・商業の活性化が期待される。今後、更に追加設置することで利用者環境の向上を図っていく。

⑥. 権堂地区市民交流施設整備事業（長野市）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	公共広場や住民サービス施設等が一体となった市民交流空間の整備。「権堂 B-1 地区市街地再開発事業」と併せて実施
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 1 月から「長野市権堂イーストプラザ市民交流センター」として供用開始した。今後、施設利用による交流人口の増加と地域の活性化が期待される。

⑦. 共通駐車券事業（株まちづくり長野）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	事業に参加する中心市街地区域内の時間貸駐車場に、共通駐車サービス券を導入することにより、商店街への買い物客等の利便性及び回遊性を向上
事業効果及び進捗状況	平成 20 年度の事業開始以降、参加駐車場及び参加店舗が増加しており、利用状況も順調に推移している。平成 27 年春の善光寺御開帳では、自動車で来街する観光客の利用が見込まれるため、周辺地域への観光客の回遊効果が見込まれる。

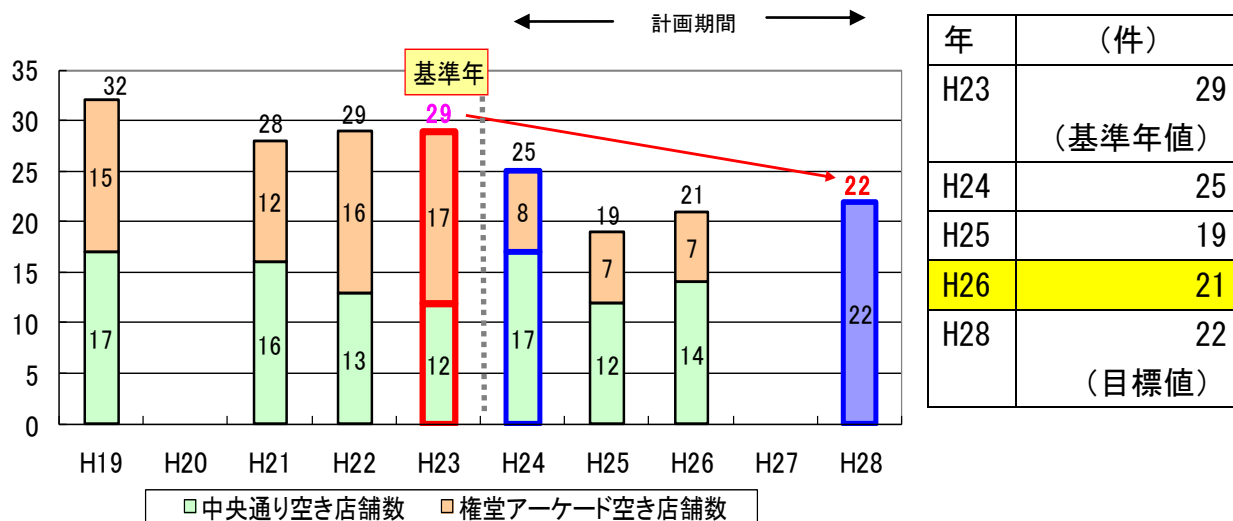
⑧. 善光寺表参道景観づくり推進事業（長野市）

事業完了時期	平成 24 年度【済】
事業概要	善光寺表参道に相応しい景観づくりを行うため、総合的な景観について協議する組織を立ち上げ、善光寺表参道の建物景観及びストリートファニチャー等のガイドラインを策定
事業効果及び進捗状況	平成 25 年 3 月に「善光寺表参道景観ガイドライン」を策定。現在は土地所有者等がこれらのガイドラインに基づく景観協定を締結し、善光寺表参道にふさわしい景観づくりを推進している。

③ - 2 「空き店舗数の減少（件）」

※目標設定の考え方 基本計画 P87～P89 参照

●調査結果の推移



※調査方法：目視確認 毎年 11 月に実施

※調査月：平成 26 年 11 月

※調査主体：長野市

※調査対象：中央通りと権堂アーケード沿いの 1 階部分の空き店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 情報発信拠点整備事業（権堂まちづくり協議会）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	権堂地区の空き店舗を活用し、当該地区及び中心市街地区域内の観光やまちづくり等に関する情報を発信する拠点として、「権堂まちづくりセンター」を整備・運営
事業効果及び進捗状況	平成 23 年 10 月の「権堂まちづくりセンター」開所以来、まちの魅力の発信や文化講座の開催等の活動をするとともに、地区内の空き店舗情報を発信した結果、まちの魅力の再発見が新規出店に結びつき、権堂アーケード沿いの空き店舗の大幅な減少に貢献した。

②. 空き店舗等活用事業

(株)まちづくり長野・中心市街地内にある商店街及びまちづくり団体・特定事業者)

事業完了時期	【実施中】
事業概要	事業者等が、事業対象要件に合致する空き店舗等を活用し、店舗や交流サロン等として活用する場合に支援
事業効果及び進捗状況	中央通り及び権堂アーケード沿いの 1 階部分の空き店舗に対する支援件数 平成 24 年度… 3 件 平成 25 年度… 2 件 平成 26 年度… 3 件

●目標達成の見通し及び今後の対策

これまで歩行者・自転車通行量の指標については、調査地点が主要事業の工事区域に位置しており、その影響から、値の推移に順調とは言えない面があった。北陸新幹線の延伸開業及び善光寺御開帳に向け実施してきた主要事業が順調に完了したことを受け、これからは来街者の回遊効果と中心市街地の観光・商業の活性化に寄与することが期待される。今後は、これらの事業効果をより一層高めるためにも、まちなかの案内や来街者への接遇といったソフト面での対応も、地元と一体になって推進していく必要がある。

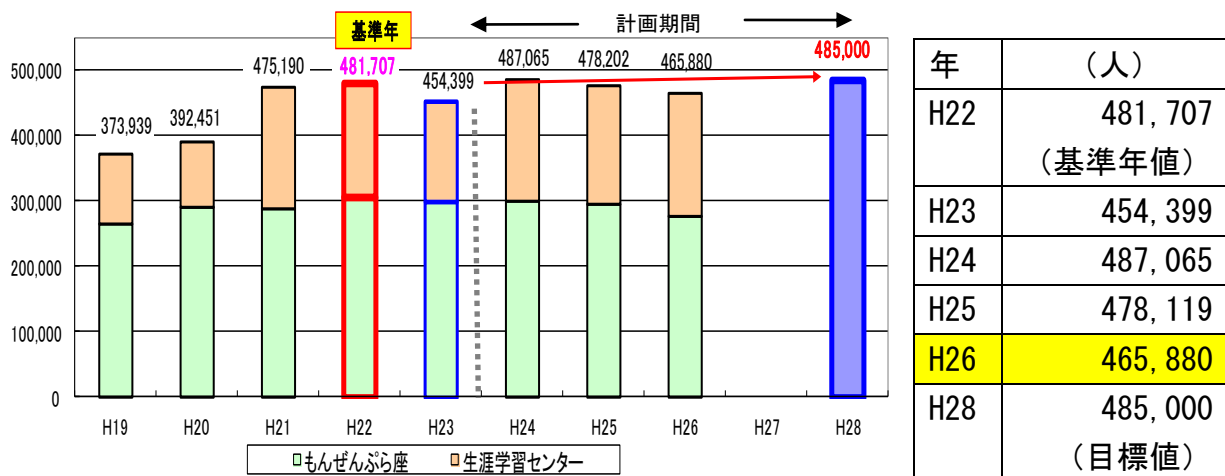
空き店舗数については、権堂まちづくり協議会の「情報発信拠点整備事業」による積極的な取り組みにより、権堂地区で大きく減少した状態が維持されており、目標数値達成の状況にある。ただし、中央通りでは空き店舗数減少の動きが見られず、やや増加の傾向となっている。今後は、権堂地区の取り組みを中央通りにも波及させていくような活動を、地域の商店会団体等と連携しながら、「空き店舗等活用事業」の活用を含め、積極的に進めていく必要がある。

目標④「参加したくなるまち」

「もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数（人）」

※目標設定の考え方 基本計画 P90～P92 参照

●調査結果の推移



※調査方法：毎年度3月末を基準日とし、各施設の年度毎の利用者実績を積算

※調査月：平成27年3月

※調査主体：長野市

※調査対象：もんぜんぷら座及び生涯学習センター利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. もんぜんぷら座運営事業（長野市・(株)まちづくり長野）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	既存ストックの有効活用により、長野市が公益施設を、(株)まちづくり長野が食品スーパーを運営

事業効果及び進捗状況	(主な使用状況)
	地階 貸しホール等 1階 トマト食品館(食品スーパー) 2～4階 公益施設等 5～8階 民間企業へ賃貸等 平成25年6月に開館10周年、平成26年3月に公益施設利用者数300万人達成など、中心市街地の賑わい創出の拠点として貢献している。利用者数がやや減少傾向であるが、利用環境の整備や利用促進のPRに取り組みながら、年間利用者30万人を目指していく。

②. 生涯学習センター管理運営事業（長野市）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	既存施設の有効活用による、「トイゴセミナー」をはじめとする生涯学習センター自主講座の開催とカリキュラムの充実
事業効果及び進捗状況	「トイゴセミナー」をはじめ、延べ40回程度の講演会等の自主講座を毎年開催。併せて、市民や企業グループによる講座・研修会、高等教育機関（放送大学等）による学習講座の開催等のために学習室の貸出しも行っている。年間利用者数も18万8千人となっており、ここ数年安定した利用実績で順調に推移している。

③. もんぜんパートナーシップ事業

（長野市・もんぜんパートナーシップに賛同する団体）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	市民や参加企業が、まちなかでのボランティア活動を通じて協働によるまちづくりを実践。長野市は、清掃道具の貸与やボランティア保険の加入により、活動を支援するもの。
事業効果及び進捗状況	平成26年度は、10団体により、延べ活動人数1,649人、延べ活動時間1,390時間の実績となった。平成17年度の事業開始から団体数及び活動人数は概ね順調に推移しており、まちづくり活動への理解と参加が進んでいることが確認できる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業である「もんぜんぷら座運営事業」及び「生涯学習センター管理運営事業」の利用者数は安定しているもののやや減少傾向で推移している。「中央通り歩行者優先道路化事業」など整備完了を受け、中心市街地の魅力向上に伴う交流人口の増加により、もんぜんぷら座、生涯学習センター利用者の増加が期待され、目標達成は可能と見込まれる。

今後、利用環境の整備や自主企画講座の充実等による利便性の向上を図るとともに、関係施設との連携により利用促進のPRにも努めながら、さらなる利用者増加に向けて取り組んでいく。